

BLoC2011 第4戦エナジークライミングジム高田馬場店

レポート

去る2012年2月5日にBLoC第4戦エナジー高田馬場店戦が行われました。

直前のピラニア富士吉田店戦が、雪のためにキャンセルになり、第3戦から少し開いての大会となりましたが、若い力の台頭を如実に見せつけた大会となりました。

インフルエンザ等で多くのキャンセルが出る中、当日は4カテゴリー合わせて全112名の選手が参加しての開催となりました。

予選は50分2ラウンドで、それぞれ6エリア12課題で行われました。

それぞれ、レギュラー男子が課題番号1~12。レギュラー女子が4と13~23。ミドル男子が13~16、18~22、24~26。エントリーが17、23、27~36。どのカテゴリーでも登れるものをしっかりと登り、取りこぼしをしないことが、決勝に進めるかどうかの大きな分岐点となりました。

まずはエントリークラス。わずか11歳の土肥圭太選手が、あっさり全課題を完登。つづいたのは、BLoC初出場となる小川心平選手。惜しくも11完登12ボーナスの選手が4名いる中、全完登の2選手による決勝が決定。

ミドル男子と合わせて行われた決勝では、小川選手はさすがに厳しかったか、B2を2つ取るのが精いっぱいでした。ところが土肥選手は安定した登りで、2課題を完登。さすがに第3課題ではリーチに苦しみ、出だしを超えられなかったものの、その登りは観客を大いに沸かせるとともに、ミドル男子に交じっても遜色の無い素晴らしいパフォーマンスでした。これで土肥選手は2連勝。

つづいてはミドル男子。こちらレギュラー女子との共通課題である、WAVEの22番をミドル男子では唯一登った辻風人選手が全課題を完登。11完登12ボーナスで山口柊選手が続き、10課題以上を登った7名の選手が決勝に進出しました。

エントリーと同時に行われた決勝では、垂壁に設定されたバランスな第1課題をなんと全選手が1撃。つづく130°のパワフルなランジを要求される第2課題は辻選手、山口選手、増尾里紀選手、大森光星選手、久禮星弘選手が1撃して、優勝争いはこの5名に絞られました。WAVEに設定された第3課題は、パワフルな出だしからスローパーを抑え、上部ではカチからのランジと盛りだくさんな内容。これを1撃した

のが辻選手、山口選手、坂本哲平選手。増尾選手、大森選手は惜しくも2撃。この結果、全3課題を1撃した辻選手が予選のカウントバックで見事に優勝。予選、決勝の全課題を完登する完全優勝を果たしました。山口選手は決勝を全て1撃するものの惜しくも2位。3位には決勝を3完登4アテンプトと、これも素晴らしいパフォーマンスを見せた増尾選手が予選のカウントバックで大森選手を振り切り、嬉しい初の表彰台。

ここでも辻選手が中学生、山口選手が高校生と、若いユース世代が存分に力を発揮しました。

次はレギュラー女子。ミドル男子でも1名しか完登のでなかった、22番を女子でただ一人完登した野中生萌選手が、11完登12ボーナスで1位通過。レギュラー男子との共通課題、女子の最難課題だった垂壁の4番は、惜しくもゴールが取れずに全完登はなりませんでした。圧巻のパフォーマンスを見せつけます。2位には細野かおり選手。22番こそ登れませんでした。10完登11ボーナスの素晴らしい成績。結局9完登以上の、6名の選手が決勝に進出。

決勝第1課題は垂壁。トリッキーな出だしから、最後はカンテを回り込んでスラブに出る課題。トリッキーな出だしに苦勞する選手が続出する中、中田茉那選手が2トライ目にここを突破して、そのまま完登。つづく細野選手も苦勞しながらも3撃で続く。ところが予選トップの野中選手は、完璧なムーブで余裕を持って1撃し、一気に優位に立つ。つづく2課題目は130°に設定された、パワフルな出だしから、トリッキーな中間部、そして最後に大きなレンジをする持久力を必要とされる課題。これを各選手B1までは行けるのだが、最後のパートをこなせず。そしてこれも野中選手は圧巻の1撃。これで優勝を決めると、最後の第3課題、WAVEに設定された、ダブルダイノの後、厳しいクロスを返す課題もあっさり1撃。全て1撃で文句なしの圧勝。2位争いは中田選手、細野選手ともに第3課題を1撃して、第1課題のアテンプト数で中田選手が細野選手を抑え、初めての2位を獲得。

野中選手、中田選手ともにまだ中学生。これからが楽しみな二人です。

最後に、今大会最大のサプライズがあったのがレギュラー男子。予選は完登のでなかった課題が3課題、ボーナスが取れなかった課題も出るなど、全体的に厳しかったが、その中でも左舷の5番を一人だけ完登した森田裕也選手が8完登11ボーナスで1位通過。2位には取りこぼしなく課題を落としていった大井将生選手が7完登10ボーナスでつづく。結果7完登9ボーナス3位タイまでの6名の選手が決勝に進出。

決勝第1課題はスラブ。いきなりノーハンドでスタートし、最後には垂壁のカンテをからんで、確率の悪いスメアでのデッドポイントという、登りづらい課題。これを、森田選手、大井選手と波田悠貴選手が1撃し、まずは一歩リード。岩田哲選手は出だしで

こずるも、5 トライ目で完登。坂倉俊幸選手と、杉卓洋選手は惜しくもゴール取りで失敗し、一步後退。130° の第 2 課題は、悪いスローパーの処理と、最後に思い切りが試される課題。これをムーブを読み違えた森田選手と大井選手は 2 撃。しっかり 1 撃した波田選手が優位に立つ。そのほかの選手は岩田選手、坂倉選手は 1 撃して次に望みを繋げるが、杉選手は 2 撃で、優勝争いからは脱落。最後、WAVE の第 3 課題は、パワーとムーブの読みが必要な出だしに、悪いスローパーの持ち替え、最後は持久力を要する決勝の最難課題。各選手 B1 までにはたどり着けるのだが、足が悪くてそこから手が出ない。登れば優勝に近づく、波田選手も 2 トライ目の B1 までで終了。最後に登場した森田選手は、登れば優勝の中、順調にムーブをこなしていく。そして誰もが取れなかった、B1 からの一手を止め、後はゴールへのレンジ。しかし惜しくも止め切れずにタイムアップ。この瞬間、波田選手の優勝が決定。中学生にして初めての決勝で、初優勝。まさかの大番狂わせで、本大会は幕を閉じることとなった。

今大会は優勝者がすべて中学生以下というユース世代の台頭を見せ付ける結果となりました。これはこれで素晴らしいことですが、土肥選手、辻選手、山口選手は上のクラスでも十分戦えるだけのパフォーマンスだったと思います。伸び盛りの若い選手は、どんどん上のクラスにチャレンジしていても良いのではないのでしょうか？

最後に出場して頂きました選手の皆様はじめ、観客やスタッフの方々、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

御協賛頂きました、(株)キャラバン、(株)サンダンスアウトドアーズ、(株)ロストアローの各社様には厚く御礼を申し上げます。

文責
(有)エナジー
エナジークライミングジム高田馬場店
卯城 鉄平